

SAVING ON COURT MAINTENANCE

コートメンテナンスでの節約について

マリー・ヘレン・スプレジャー

クーポンを集めたり自分で洗車をするなどして、支出を抑える努力をしていますよね。では、テニスコートのメンテナンス費用はどのようにして抑えていますか。

テニスコーチの皆さんは、レッスンやリーグ戦の調整や等をして毎日を過ごしていますね。勿論、コートのメンテナンスも仕事の一つですね。コートを良い状態に保って快適なプレーができるようにするためには、かなりの時間がかかりますね。また、お金もかかりますから、自分でやった方が良いか、業者に頼んだ方が良いかは迷うところです。

多くの場合、自宅に手を加えることをコートにあてはめて考えてみればよいでしょう。自分や利用者でできることもあるでしょうし、専門的能力が必要なこともあるでしょう。簡単な作業をするだけで、コートを長持ちさせることができるということを第一に考えましょう。

どの専門家の意見を聞いても、一番大切なことはコートに対する気配りだということです。

「メンテナンスを考えると、些細なことでも放っておくと大事に至ることが多い。」（ミー・リンフ & ティム・バークリー/Lee Tennis Court Products, Charlottesville, VA.)

☆利用者ができること☆

クレーコートのコート出入口付近には、コートブラシや箒が掛けてあり、プレーの後のブラシ掛けやライン掃きをしてもらうようになっています。使い方が掲示されていたり、初めての人には最初の数回はやり方を指導したりします。

利用者は、そうすることが快適なプレーにつながり、コートの維持につながることを理解し始めるでしょう。ブラシは、フェンスに吊しておくようにすることで、ブラシ先端の傷みが軽減され、コスト節約にもつながります。

ハードコートの場合は、毎回のメンテナンスは必要ありませんが、雨の後にすぐにプレーができるようにするためには、水掃きが必要となります。スポンジローラーやゴム製水切りを準備して、それらの使用法を明示しましょう。コートの両サイドの一つずつ置けば、時間の節約にもつながります。

利用者に気づいたことを知らせてもらうようにすることも大切です。ちょっとしたことで長く放っておくと、大きな出費につながりかねません。

☆自分でできること☆

クレーコートの手入れやコート面の傷の補修の仕方がわからなければ、業者に相談して教えてもらいましょう。業者はたいてい専門家や補修担当者向けの日常のメンテナンスに関するセミナーを開いています。

もし、自分に携わる時間がなければ、誰か担当者を指定して、技量が身についたら相応の手当を支給するようにして、あなたが他のことに専心できるようにしましょう。

「あなた自身がブラシ掛けやライン掃きをして、テープを止めている釘の緩みのチェックや散水のタイミングを計るようにするのが望ましい。日頃のブラッシングを怠ると、翌日のイレギュラーバウンドにつながります。そして、月に1～2回は、もう少し広範な部分の点検に時間をとるようにしましょう。クレークコートでは、フェンス沿いやコートの隅の雑草などを処理します。ベンチやネットの下にも注意が必要です。」（リッチ&パイヤー）

ハードコートでは、ブロワーや毛先の柔らかい箒を使ってコート表面をいつもきれいにしておきましょう。コートに汚れやシミがあったら洗剤を使って洗い流しましょう。ネットやラインの傷みなども点検しましょう。

「ゴミ箱をいつも空にしておくことで、ゴミが溢れるのを防ぎ、中身が漏れてコートを汚す原因となる空き缶や空き瓶などを捨てないようにさせることにつながります。汚れを掃除するための余分なお金や時間を使わないですむ超ローテクな対処法です。」（リッチ&パイヤー）

「コートに亀裂を発見したらすぐに対応しましょう。業者としては、専門家による対応をするように勧めています。業者によっては、自分で対処をして処理しきれなかった場合に、保証の対象外とするところもあります。」（デビッド・マースター/Boston Tennis Construction, Hannover, MA.）

亀裂が入ったら、その都度補修をすることで、コート面の寿命を縮めることになる亀裂の広がりを防げます。小さな亀裂であれば、充填剤を使って、自分でヘラやナイフを使って埋めることができますが、亀裂が大きくなればより多くの材料が必要となり、専門家の手が必要となります。

充填剤はテニスコート用となっている物に限ります。そうでないと、熱でべとついて、汚れがコート全体に広がってしまいます。亀裂の程度によって対応は異なりますので、不明な時は専門家に聞くようにしましょう。

「取り外し可能なネットポストは、年に1回は取り出して、ポストも受けも掃除して錆止めを塗るようにすれば、初期に近い状態を保つことができ、ポストを交換するためにその周辺を壊す必要がなくなります。」（リチャード・ザイノ/Zaino Tennis Courts, Orange, CA.）

「コートメンテナンス用具のローラーやブラシやライン掃き等は、買い換えるよりも修理で済むことが多い物です。」（マースター）「防風スクリーンのチェックも大切で、結び紐等が欠損していたら交換しましょう。」（リッチ&パイヤー）

☆積極的に☆

一般的にハードコートの場合、ちょっとしたことを守れば、長持ちし綺麗に維持することができますようになっているものです。テニスシューズを着用させることで、コートに黒いマークがつくことを防げますし、コート出入り口に靴クリーナーやマットを置くことで、ゴミや汚れをコート

に持ち込んで表面に傷をつけたり汚したりすることを防げます。言うまでもなく、スパイクのある靴や、ヒールのある靴、スケートやキックボードや自転車等はコートに傷め、修理費も高くつくことになるので注意が必要です。

また、コートベンチや審判台などの重いものをコート上で引きずらないようにすることです。出入り口の扉がコートに触れているとコートに傷めます。子供達は動く扉に乗って遊びたがりますので、見かけたら注意をしましょう。

「人によっては、高圧洗浄機を使ってコートや仕切り幕や防風ネットを洗うこともあります。確かに洗浄のための人を使うコストは抑えられますが、正しく使わないとそれぞれを傷めることになります。高圧洗浄機の効果に喜ぶオーナーもいますが、1年も続けると表面の再コーティングが必要なことに気がつくでしょう。」 (リ・マレ/Competition Athletic Surfaces, Inc., Chattanooga, TN.)

☆禁忌事項☆

支出を抑えるためにできることは沢山ありますが、やってはいけないこともあります。

「お金の節約のために自分で表面処理をしないことです。アクリル系のカラーコーティングを施すには、熟練した技術と特別な用具が必要です。不陸の調整も専門家に任せるべきです。よく地方自治体で、道路補修と同じように考えて行うことがありますが、違います。路面補修以上に遙かに優れた耐久性と質が求められます。」 (デビッド・バード / Industrial Surface Sealer, Cleveland, OH.)

汚れや窪みがあっても、そのままアクリル系コーティングをしないことです。その部分が黒ずんで残ってしまい、見た目が悪くなります。

「コートのライン補修も自分ではしないようにしましょう。マスキング用のテープマシンを持っていて、最適の塗料を用いる業者に依頼しましょう。エナメル系や油脂系のペイントを使ったがために、コート表面を傷めてしまうケースを見てきています。」 (バード)

「クレーコートの場合の掘り返し作業は専門業者に任せましょう。測量にレーザー機器を用いない業者には依頼しないようにすることです。クレーコートの改修を軽く考えるべきではありません。ネットポストの入れ替えも同様で、作業時間もコンクリートも多量に必要とします。」 (リッチ&バード)

コートの照明に満足がいなくなっても諦めることはありません。高さや配線を変えるなど、現状を改善できる方法はあるものです。インドアの照明とアウトドアの照明にも違いがあります。クラブハウスの外や駐車場の照明に使う支柱は、テニスコートの照明には適しません。

「どこまでが自分でできて、どこからを業者に委ねたらよいかの方程式はありませんが、工具の『重さ』が一つの目安となります。作業をするのに重い工具が必要となるような仕事は自分ではやらないことです。自分で作業することで費用を抑えようと思ったことが、返って予想外の

出費を招くことがあります。効率よく正確な作業の進め方を知らないことが、より多くの作業時間と出費に繋がります。」 (リン&ペイ)

☆計画的に☆

コートで運動を始める前に準備運動をすることと同様に、何を乙夜ったら良いのかを考えて準備することが必要です。

将来に向けての予算組みをしましょう。現在の財政状況が苦しければ、将来に実施する計画を立てましょう。何をしたいのか、コートに何が必要なかを整理するのです。メンテナンス用具を購入するといった程度のことから、建物の増築くらいまでの幅はあるでしょう。今から準備して、将来のための資金を確保したり、計画遂行のための協力者を募ることができます。

節約することはよいことですが、そのために施設を犠牲にするのでは意味がありません。施設の収益性を考えることは、良いマネージャーとしての資質の一つです。メンテナンスに関しても同様で、想像力を持って問題を解決し、支出をいかにして抑えるかを考えられれば素晴らしいことです。時間を有効に使えば、お金は自ずからついてきます。

【注】全米スポーツ施設建設協会 (ASBA) は、デザイナー、造成業者、オーナー、管理者、そして、ユーザーのために、質の高いスポーツ施設の建設を手助けする非営利団体です。情報提供のための会合やニュースレターや書籍の発行をして、テニスコートを含めた体育施設の建築基準等を紹介しています。発行物や会員名簿等は無料で入手できます。www.sportsbuilder.comをご覧ください。

【筆者紹介】 **Mary Helen Sprecher**: 20年以上に亘り、ASBAに技術面の寄稿をしており、テニスコート、陸上競技施設、運動場、スタジアム、インドア健康施設等の運動施設に関する記事や、RSI magazineやバルチモアの新聞社への記事など多数執筆。

【翻訳・監修】 **鈴木真一**: アド・イン桜テニスクール(柏市)代表 / PTR JAPAN代表 / PTRマスタープロフェッショナル (2008) / インターナショナル・マスター & クリニシャン / PTRプロフェッショナルオブ・ザ・イヤ (2001) / JPTRプロオブ・ザ・イヤ (1986)